

イスタンブール紀行(その1)

事務局長 池田良穂

4度目のイスタンブールにやってきました。今回は、イスタンブールで船舶工学科のある名門ユルドース大学主催の国際会議に招かれてのことでした。ユルドース大学は、本部がユルドース宮殿にあるという名門。国際会議は月曜からなのですが、折角なので土日にボスポラス海峡やマルマラ海の船にも会いたくて、金曜日に日本を立ち、土曜の早朝 4 時にイスタンブールに到着しました。

空港からホテルに直行して、少し休憩をして、イスタンブールの一大フェリー基地であるエミノニュ埠頭にでかけました。前回来たときは学生も同道していて、ここが「飛んでイスタンブール」の町だよ、といったら、「何の歌ですか?」とキョトンとされてがっかりしましたが、今回は一人旅なので、この懐かしい歌を口ずさむのにも遠慮はいりませんでした。

エミノニュ埠頭に向った目的は、ボスポラス海峡フルクルーズに乗船すること。毎回乗船しているので、これが 4 回目になります。イスタンブールは、マルマラ海(地中海とはダーダネルス海峡で結ばれています)と黒海を結ぶ国際海峡であるボスポラス海峡の南端に位置しています。この海峡は、どこの国の船舶でも通行することができる国際海峡となっています。つい先日、大型貨物船が舵の故障で、同海峡の中で陸に乗り上げ、古い歴史的建物を破壊したというニュースがありました。国際海峡の管理運営もなかなか大変です。このボスポラス海峡クルーズの様子は次回に紹介します。

さて、イスタンブールと言えば、官営のトルキッシュ・ステイト・マリタイム・ラインズの独特の形状のフェリーがたくさん就航していることで有名ですが、2005 年には民営化してシェヒル・ハトラリ社(Sehir Hatlri)となり、最近では、フェリーの新旧交代を積極的に進めつつあります。

まずは、初日にエミノニュ埠頭で出会った新旧のフェリー群のご紹介から始めたいと思います。この埠頭には、航路ごとに小さな待合室が設けられており、自動改札機が並び、電車やバスでも共通して使えるプリペイド式のイスタンブール・カードが使えます。ただし、その購入マシーンがトルコ語のみで、四苦八苦しているところをトルコ人の若者がサポートしてくれて、なんとか入手することができました。ただし、同社の行うボスポラス海峡クルーズだけは、窓口があり、切符を購入することになっています。

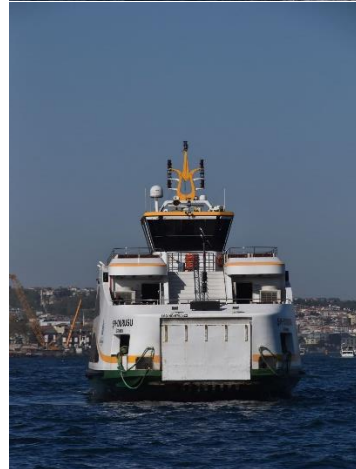




海峡内航路を結ぶ旧タイプのフェリー。かつては舷側に救命ブイをたくさん並べていましたが、今はほとんどありません。



少し新しいタイプのフェリーです。



新型フェリーで、4隻ほど就航しているようです。カーフェリーのように見えますが、旅客専用船です。船首着けで着岸するため、着岸操船がスムーズになりました。



従来型のカーフェリーもまだ健在です。救命浮輪がデッキに並んで据え付けられています。エミノニュ岸壁の一番南の端(正式にはスィルケシ埠頭と呼ばれているようです)に専用岸壁があり、2社のカーフェリーの乗り場が並んでいます(左の写真参照)。



IDOの新鋭カーフェリーです。海底トンネルができたので、カーフェリーの方は苦戦しているかと思いきや、2社の競合状態になっていました。IDO社は拡大目覚ましい民間フェリー会社で、IDO(iDO)は、Istanbul Deniz Otobusの略です。